こんにち新聞

'95.2.No.212
発行責任 市岡昭
0883-88-5295

春感

里から春の声が聞こえるようになりました。「梅の花が咲いた」「菜の花が水仙が」と。ちょっと街中へ行くと菜の花が風にゆれてるのを見かけ、ちょっと時をした気分になる。

祖谷に帰えれば、氷柱が岩から下ってたりしますが、祖谷にも春の風が時々だけど確実に近おいてることを感じますよ。

ちょっと気温があがる日には、小鳥の鳴き声が多くなります。まだ当ウビタキが連日見えるのに、ツグミウガラやスズメがさえずります。そんな日は散歩をしていても心がはずんでくる様で、まわりの景色が違う様に感じるのが不思議です。

そんな日は、雪どけ水の音も心地良い。それに、太陽の反射で雪の表面がキラキラ輝いたり、氷の下を流れる水が、オタマジャクシの行列の様に次々と変化していく様は面白いものです。

そくて、山での春近くは、何といっても福寿草とマンサクの黄色の花を見ると昨日までの寒さを忘れてしまいます。

ワンシーンです。そんなに多くはないのですが、祖谷ごろりぞいで咲いているのに出合います。

福寿草は、山登りをする皆さんが、春を求めて来る花です。身近な花ですがちょっと陽当りのよい場所が、早く咲いているのに出合うと嬉しい花です。

"あっ福寿草が咲いてる！"と事に出す程、待ち遠しい春待草。

今年も、一月末頃になると、あそこにあった福寿草が咲いてるかな、と行ってみると、数株ですが、鮮やかな黄色の花びらを広げて咲いていました。

もう、寒くても、雪が降っても大丈夫。一日ごとけてしまうだろうし、何日も寒くはない。雪どけがはじまると、フキノトウも顔を出す。この頃は、庭が先ず みつけて食べるので、手に入れるには、残りになるようだ。

他の木々は、まだ冬の衣装なのに、マンサクは、一足早くに春を感じて、咲いてる姿は、この季節の楽しみの山々の木々だって、今までモノトーンの世界だったのに、心もち色ずいてる。と感じるようになりました。

木の芽が活動をはじめるようです。時に落葉樹の細い枝先 ちょっと赤味がこくなってくると、春はすぐそこだ。

なんとなく楽しくなる
なんとなく嬉しくなる
なんとなく心がウキウキする。
何もなくても
何か期待している
それだけで 幸せを感じる
春って 不思議
春が不思議なのか人間の心がわりが
不思議なのか
ともかく、もうすぐミソサザイが鳴き
はじめると、やっぱ 春だ！

合う人と話がはずむ 福寿草